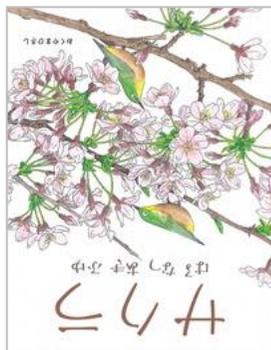


ふゆのあいた、えただけだつたサクラの木。こほみがすこしずつふくらんで、はるには花がまんかいになりました。そこへ、メゾロヨミツバチがやってきて、みつをすつたりかふんをこすりかきつけて、たぐりかんさつすると、たぐりかんさつがあります。

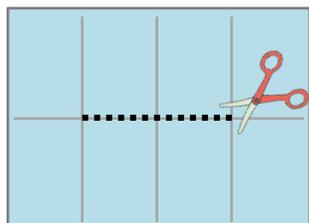
E 『サクラ』 はる なつ あき ふゆ  
おくやまひさし / 作 ほるぶ出版



スズメのはなは、にんげんのお母さんがおけしよをしつていて、まねをしてきたくなります。このそりまどからへやにいらして、お母さんのほおべにをぬつてみました。そのとき、おんのかかみていることにきがついて、はなはあわててにげだそうとします。

E 『とりあえずとりのはなし』  
おくはらゆめ / 作 あかね書房

K913



紙を8つにおいて、半分にひろげてね。てん線のところに、ハサミで、きりこみをいれて、くみだてれば、本のかたちになるよ！

編集・発行 富山市立図書館

富山市西町5番1号

電話 076-461-3200

としょかんのホームページもみてね！

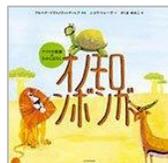


2022年  
4月号

1 2 3 年

E 『オノモロンボンガ』

アルペナ・イヴァノヴィッチ=レア / 再話



ニコラ・トレヴ / 絵

さくまゆみこ / 訳

光村教育図書

カメが、おいしい実のなるまほうの木をさがしにでかけました。その木は<オノモロンボンガ>といって、なまえをよばないと実をくれないのです。そこへライオンがきて、あしのおそいかめのかわりに木をさがそうとしますが、なまえをわすれてしまいます。

E 『こんとごん』

てんてんありなしのまき』



織田道代 / ぶん

早川純子 / え

福音館書店

こんがドアをあけると、おひさまが「きらきら」、かぜは「さわさわ」しています。ごんがとなりのドアをあけると、おひさまが「ぎらぎら」、かぜは「ざわざわ」していました。ふたりがドアの中をすすんでいくと、にているけれどすこしちがうことがおこります。

平賀源内は江戸時代の発明家です。初めて見るものでも仕組みを見ぬき、なんでも自分で作る事ができました。しかし、オラソクから来た<しびれる箱>だけには、長年仕組みがわからないうままでした。

<しびれる箱>の解明にとりかかった源内は、箱から出る火花がいなすまにしていることに気が付きます。

鳴海風／著 高山ケツタ／画 岩崎書店

『エレキナルの謎を解け 電気を発見した技術者平賀源内』

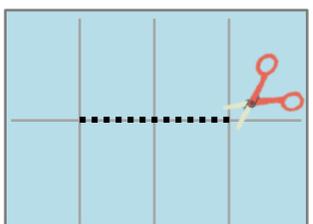
K289



青森県八戸市には、<えんぶり>という春をよぶお祭りがあります。太一と優希（あゆき）が、えんぶりで<えびす舞>をおどるようになりました。しかし、太一はやる気がないうえに、優希はリズムおんちで、二人は息が合いません。そんな中、太一がまわりにかくしているあることが原因で、優希と大ゲンカしてしまいます。

高森美由紀／作 フリーバル館

『ふたりのえびす』



紙を8つにおって、半分にひろげてね。てん線のところに、ハサミで、きりこみをいれて、くみだてれば、本のかたちになるよ！

編集・発行 富山市立図書館  
富山市西町5番1号  
電話 076-461-3200  
としゃかんのホームページもみてね！

わ く わ く  
本 だ な



2022年  
4月号

4 5 6 年



K913 『チイの花たば』  
森絵都／作 たかおゆうこ／絵  
岩崎書店

チイのおばあさんは、お花屋さんです。お客さんにぴったりの花たばをつくるおばあさんを見て、チイも花やになりたいと思うようになりました。そんなチイに、おばあさんは「花やにふさわしい人間か、花にためされる日が来る」といいます。

ある夜チイは、夢の中で花畑（ゆめ）にいました。そこで白ヤギのおじいさんと出会い、おくりもの花をえらぶ手伝いをします。